

1964年 大会記録

国際

◇イラン国際大会＝フリースタイル（3月13～15日、イラン・テヘラン）

▼フライ級 吉田義勝（日大）＝優勝、▼バンタム級 福田富昭（日大）＝2位、▼フェザー級 阿部治男（日大）＝二失、▼ライト級 堀内岩雄（日大）＝3位、▼ウエルター級 伊藤勝春（日大）＝四失、▼ミドル級 佐々木龍雄（日大）＝優勝

◇全米選手権（6月21～25日、米国・ニューヨーク）

《フリースタイル》▼フライ級 青木広彰（NYAC）＝優勝、八田忠明（カウボーイAC）＝2位、村山栄治（関大）、▼バンタム級 八田正朗（カウボーイAC）＝3位、長門靖彦（明大）、▼フェザー級 原三男（立大）＝優勝、村野力（NYAC）＝3位、長内一（専大）、▼ライト級 清水守（東洋大）＝3位、▼ウエルター級 井関隆次（近大）

《グレコローマン》▼フライ級 青木広彰（NYAC）＝優勝、立川伸平（茨城大）、▼バンタム級 池内隆夫（日体大）＝優勝、▼フェザー級 藤井敏弘（関大）、橋本勝（早大）、▼ライト級 菅野一未（明大）、▼ウエルター級 高橋征夫（日体大）＝四失、▼ミドル級 開健次郎（自衛隊）＝四失

◇東京五輪（10月11～19日、東京・駒沢体育館）

《フリースタイル》▼フライ級 吉田義勝（日大）＝優勝、▼バンタム級 上武洋次郎（オクラホマ州立大）＝優勝、▼フェザー級 渡辺長武（中大OB）＝優勝、▼ライト級 堀内岩雄（電電公社）＝3位、▼ウエルター級 渡辺保夫（明大）＝5位、▼ミドル級 佐々木龍雄（日大）＝5位、▼ライトヘビー級 川野俊一（自衛隊）＝三失、▼ヘビー級 斎藤昌典（明大）＝三失

《グレコローマン》▼フライ級 花原勉（日体大助手）＝優勝、▼バンタム級 市口政光（辰野KK）＝優勝、▼フェザー級 桜間幸次（自衛隊）＝4位、▼ライト級 藤田徳明（日体大助）＝4位、▼ウエルター級 風間貞夫（新潟放送）＝三失、▼ミドル級 開健次郎（自衛隊）＝三失、▼ライトヘビー級 中浦章（東洋レーヨン）＝二失、▼ヘビー級 杉山恒治（東京観光ホテル）＝三失

国内

◇東京五輪第一次選考会（4月25～28日、東京・青山レスリング会館）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 今泉雄策（杉浦製作所）、▼バンタム級 金子正明（自衛隊）、▼フェザー級 森田武雄（明大）、▼ライト級 堀内岩雄（電電公社）、▼ウェルター級・ミドル級 阿部一男（丸大用紙店）、▼ライトヘビー級・ヘビー級 川野俊一（自衛隊）

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 花原勉（日体大OB）、▼バンタム級 市口政光（辰野KK）、▼フェザー級 桜間幸次（自衛隊）、▼ライト級 沢内敏行（専大）、▼ウェルター級 風間貞夫（新潟放送）、▼ミドル級 波山龍美（明大OB）、▼ライトヘビー級・ヘビー級 斎藤昌典（明大）

◇全国高校選抜大会（5月3日、新潟・新潟高）

《学校対抗得点》①新潟・新潟商（2年ぶり6度目）、②宮城・仙台育英、③富山・高岡商

《個人戦優勝者》▼52kg級 堀川潤治（新潟・新潟商）、▼55kg級 吉田貞夫（新潟・新潟商）、▼58kg級 佐藤修治（新潟・新潟商）、▼61kg級 狩野一久（新潟・高田商）、▼65kg級 北村勉（新潟・新潟商）、▼69kg級 北村勉（新潟・新潟商）、▼73kg級 若松和歌男（新潟・新潟商）、▼73kg以上級 鈴木勝己（宮城・仙台育英）

◇東日本学生王座決定戦（5月9～10日、東京・青山レスリング会館）=決勝成績

明大○ [10-0] ●専大

※明大は8年ぶり4度目の優勝

◇西日本学生春季リーグ戦（5月15～17日、京都・京都市立体育館）

《順位》[1] 関大（4季ぶり16度目）、[2] 同志社大、[3] 近大、[4] 関学大、[5] 名商大、[6] 名城大

◇西日本学生選手権（ ）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 金井洋佑（関学大）、▼バンタム級 川畑芳郎（関学大）、▼フェザー級 岩野開（同志社大）、▼ライト級 丹羽道紀（同志社大）、▼ウェルター級 大橋功（同志社大）、▼ミドル級 川端正昭（同志社大）

※フリースタイルのみ

◇東日本学生春季新人戦（ 、東京・青山レスリング会館）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 大淵康治（専大）、▼バンタム級 勝村靖夫（日体大）、▼フェザー級 中村文昭（中大）、▼ライト級 藤村孝次（早大）、▼ウェルター級 佐藤明弘（日体大）、▼ミドル級 遠藤茂（日大）、▼ライトヘビー級 早川修（日大）

※フリースタイルのみ

◇国体（6月7～10日、新潟・新潟高）

《一般フリースタイル優勝者》▼フライ級 吉田義勝（千葉）、▼バンタム級 福田富昭（富山）、▼フェザー級 森田武雄（群馬）、▼ライト級 阿部治男（新潟）、▼ウェルター級 田代俊郎（北海道）、▼ミドル級 石川忠男（千葉）、▼ライトヘビー級 青海上（新潟）、▼ヘビー級 大塚勇（神奈川）

《一般グレコローマン優勝者》▼フライ級 月岡金四郎（神奈川）、▼バンタム級 森本紘一（新潟）、▼フェザー級 佐藤多美治（北海道）、▼ライト級 鶴巻隆義（新潟）、▼ウェルター級 宗村宗二（新潟）、▼ミドル級 渡辺保夫（岐阜）、▼ライトヘビー級 相川昇（北海道）、▼ヘビー級 杉山恒治（新潟）

《高校優勝者》▼52kg級 堀川潤治（新潟）、▼55kg級 河合友久（富山）、▼58kg級 佐藤修治（新潟）、▼61kg級 脇本忠敬（新潟）、▼65kg級 江本孝次（山口）、▼69kg級 川崎敏夫（茨城）、▼73kg級 小泉茂（宮城）、▼73kg以上級 伊藤義人（山口）

※少年はフリースタイルのみ

◇全日本学生王座決定戦（7月1日、大阪・関大） =決勝成績

明大○ [11-0] ●関大

※明大は8年ぶり4度目の優勝

◇インターハイ（8月1～3日、兵庫・関西学院）

《学校対抗戦》①新潟・新潟商（2年ぶり3度目）、②宮城・仙台育英、③東京・東京実、山形・山形商

《個人戦優勝者》▼52kg級 松原良昭（宮城・仙台）、▼55kg級 渡辺孝之（北海道・旭川南）、▼58kg級 佐藤修治（新潟・新潟商）、▼61kg級 布施武司（秋田・秋田工）、▼65kg級 山縣盛治（山口・田布施農）、▼69kg級 曾根田茂（山形・山形商）、▼73kg級 若松和歌男（新潟・新潟商）、▼73kg以上級 鈴木勝己（宮城・仙台育英）

◇全日本選手権（8月21～24日、東京・駒沢体育館）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 吉田義勝（日大）、▼バンタム級 上武洋次郎（オクラホマ州立大）、▼フェザー級 渡辺長武（中大OB）、▼ライト級 堀内岩雄（電電公社）、▼ウェルター級 渡辺保夫（明大）、▼ミドル級 佐々木竜雄（日大）、▼ライトヘビー級 川野俊一（自衛隊）、▼ヘビー級 斎藤昌典（明大）

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 花原勉（日体大OB）、▼バンタム級 市口政光（辰野KK）、▼フェザー級 桜間幸次（自衛隊）、▼ライト級 宗村宗二（明大）、▼ウェルター級 風間貞夫（新潟放送）、▼ミドル級 波山竜美（明大OB）、▼ライトヘビー級 中浦章（東レ）、▼ヘビー級 斎藤昌典（明大）

◇全日本学生選手権（9月11～12日、東京・青山レスリング会館）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 吉田嘉久（法大）、▼バンタム級 福田富昭（日大）、▼フェザー級 森田武雄（明大）、▼ライト級 佐藤輝雄（日大）、▼ウェルター級 伊藤勝春（日大）、▼ミドル級 阿倍安雄（国士舘大）、▼ライトヘビー級 平塚博（法大）

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 月岡四郎（法大）、▼バンタム級 木口宣昭（法大）、▼フェザー級 加藤陽三（日体大）、▼ライト級 宗村宗二（明大）、▼ウェルター級 田代俊郎（中大）、▼ミドル級 伊藤勝春（日大）、▼ライトヘビー級 武田允興（日体大）

◇東日本学生リーグ戦（10月24日～11月22日、東京・青山レスリング会館）

《順位》[1] 明大（2年ぶり17度目）、[2] 日大、[3] 中大、[4] 専大、[5] 法大、[6] 日体大、[7] 早大

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月13～16日、関学大）

《順位》[1] 関大（2季ぶり17度目）、[2] 関学大、[3] 同志社大、[4] 近大、[5] 名商大、[6] 名城大、[7] 桃山学院大

※関東学生グレコローマン選手権は実施せず

◇全日本社会人選手権（12月6日、埼玉・朝霞トレーニングセンター）

《実業団対抗戦》

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 白勢明夫 (川本工業)、▼バンタム級 今泉雄策 (杉浦製作所)、▼フェザー級 金子正明 (自衛隊)、▼ライト級 佐藤多美治 (日野自動車)、▼ウェルター級 風間貞夫 (新潟放送)、▼ミドル級 奥田哲夫 (自衛隊)、▼ライトヘビー級 榎原圭介 (京浜土地)、▼ヘビー級 高木春雄 (京浜土地)